

課程 全日制

教科	公民	科目	公共	単位数	2	学年	1	科	全学科
使用教科書		高等学校 公共（第一学習社）							
補助教材等		クローズアップ公共（第一学習社） 公共ノート（第一学習社）							

1 学習の到達目標

<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究し、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持つとともに、自分なりの論点を見い出そう努めよう。 ○ 客観的な資料に基づいて諸課題を考察し、解決のあり方を模索する態度を身に付けよう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
主な評価方法	・ペーパーテスト（知識・技能にかかわる問題）の結果	・ペーパーテスト（思考・判断・表現にかかわる問題）の結果 ・提出課題の記述内容 ・グループでの話し合いや発表などの場面での観察	・授業中の発言内容や行動観察 ・生徒による自己評価や相互評価の様子及び記述内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
一学期	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち I 公共的な空間と人間とのかかわり 1 社会に生きる私たち 2 個人の尊厳と自主・自律 3 多様性と共通性 4 キャリア形成と自己実現 II 社会に参画する自立した主体として 1 伝統や文化とのかかわり 第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方のあり方生き方 I 人間としてのあり方生き方についての探求 1 人間と社会のあり方についての見方・考え方 2 実社会の事例から考える～環境保護	教科書・補助教材等		社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることを学ぶ。 古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。(a) ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。(a) ・公共的な空間と人間とのかかわり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。(b) ・孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。(b) ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。(a) ・伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。(b) ・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) ・選択・判断の手がかりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。(a) ・環境保護や生命倫理に関する事例をもとに、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、選択・判断の手掛かりとしての二つの考え方をもとに、行為者自身の人間としてのあり方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。(a) ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の

一学期	5	<p>第3章 公共的な空間における基本的原理</p> <p>I 自立した主体となることに向けて</p> <p>1 人間の尊厳と平等</p> <p>2 個人の尊重</p> <p>3 民主政治の基本的原理</p> <p>4 法の支配</p> <p>5 自由・権利と責任・義務</p> <p>II よりよい公共的な空間づくりをめざして</p> <p>1 世界のおもな政治体制</p> <p>2 日本国憲法に生きる基本的原理</p>	古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、公共的な空間における基本的原理を理解する。	<p>幸福を重視する考え方と、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験などを通して、多面的・多角的に考察、表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間としてのあり方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。(a) 幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b) 公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
	6	<p>第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち</p> <p>第1章 法的な主体となる私たち</p>	憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序	<ul style="list-style-type: none"> 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。(a) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。(a) 幸福、正義、公正などに着目して考えている。(b) 公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。(b) 個人と国家・社会との関係から、世界のおもな政治体制について、自己のあり方生き方と民主主義がどのように関係しているか理解している。(a) 公共的な空間における基本的原理と日本国憲法の基本的原則を関連させながら、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) <ul style="list-style-type: none"> 法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) 生徒に身近な紛争や課題を取り

<p style="text-align: center;">一 学 期</p>	<p>主題1 法や規範の 意義と役割</p> <p>1 私たちの生活と 法</p> <p>2 法と基本的人権</p> <p>3 自由・平等と法・ 規範</p> <p>4 法をよりよく変 えていくために</p> <p>主題2 契約と消費 者の権利・責任</p> <p>1 さまざまな契約 と法</p> <p>2 消費者の権利と 責任</p>		<p style="text-align: center;">26</p>	<p>が形成、維持されて いくことについて 理解する。</p> <p>法やルールを定め る時には、どのよう なことに配慮する 必要があるかを理 解する。</p> <p>契約が対等な当事 者間の合意といえ るための条件を理 解する。</p>	<p>上げ、どのようにすれば公平・公 正に調整できるのか、主体的な ルールを作成・利用することで 考察、構想、表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法には国家と国民の間を規律す る公法や、私人間を規律する私 法などがあること、法は刑罰な どによって国民の行為を規制し 社会の秩序を維持するだけでは なく、国民の活動を積極的に促 進し、紛争を解決するなど、日 常生活に密接に関連しているこ とを理解している。(a) ・基本的人権が保障されるにいた った経緯を、現実社会の諸課題 に関わる諸資料から、必要な情 報を適切かつ効果的に収集し、 読み取り、まとめる技能を身に 付けている。(a) ・法をよりよく変えていくために、 自由権の意味や、社会権が私た ちの生活をどのように変えたの か、新しい人権とは何かをさま ざまな立場に立って考察してい る。(b) ・幸福、正義、公正などに着目して 考えている。(b) ・法や規範の意義と役割について、 現代の諸課題を主体的に解決し ようとしている。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・成年年齢が18歳以上となったこ とに対し、成年年齢の意味と成 年の責任について理解してい る。(a) ・契約と消費者の権利・責任に関わ る現実社会の事柄や課題を理解 している。(a) ・現実社会の諸課題に関わる諸資 料から、自立した主体として活 動するために必要な情報を適切 かつ効果的に収集し、読み取り、 まとめる技能を身に付けてい る。(a) ・家庭科など他教科で学んだ知識 もふまえ、幸福、正義、公正な どに着目して、多面的・多角的に考 察し、表現している。(b) ・自立した主体として解決が求め られる具体的な主題を設定し、 その主題の解決に向けて事実を 基に協働して考察したり構想し たりしたことを、論拠をもって 表現している。(b) ・契約と消費者の権利・責任につ いて、現代の諸課題を具体的な 例をもとに、主体的に解決しよ うとしている。(c)
--	--	--	---------------------------------------	--	--

<p>二学期</p>	<p>7</p>	<p>主題3 司法参加の意義 1 裁判所と人権保障</p>			<p>個人や社会の紛争を法に基づいて公正に解決するために必要なしくみと、国民が果たすべき責任を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国民の権利を守り、社会秩序を維持するために、公正な裁判が保障され、法律家が重要な役割を果たしていることを理解している。(a) ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・検察審査会や国民の司法参加の意義など、具体的な主題を設定し、その主題を追究・解決するために考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
<p>二学期</p>		<p>第2章 政治的な主体となる私たち</p> <p>主題4 政治参加と公正な世論の形成</p> <p>1 選挙の意義と課題</p> <p>2 政治参加と世論形成</p> <p>3 国会と立法</p> <p>4 内閣と行政の民主化</p> <p>5 地方自治と住民の福祉</p>			<p>よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。</p> <p>民主政治を推進するために、私たちが果たすべき責任を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・選挙権年齢が18歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心の危険性などについて理解している。(a) ・選挙のしくみ、政党の役割、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。(b) ・国会の地位と構成・権限、議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について、理解している。(a) ・地方自治には、直接民主制の考え方に基づくしくみが、国政よりも多く取り入れられていることを理解しつつ、地方自治の課題についても考察、構想し、表現している。(b) ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
	<p>8</p>				<p>主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会と国家主権に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・国際法の意義と役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表
	<p>9</p>	<p>主題5 国際社会と</p>				

<p style="text-align: center;">二 学 期</p>	<p style="text-align: center;">10</p>	<p>国家主権</p> <p>1 国家と国際法</p> <p>2 国境と領土問題</p> <p>3 国際連合の役割と課題</p> <p>主題6 日本の安全保障と防衛</p> <p>1 平和主義と安全保障</p> <p>2 核兵器の廃絶と国際平和</p> <p>主題7 国際社会の変化と日本の役割</p> <p>1 今日の国際社会</p> <p>2 人種・民族問題と地域紛争</p> <p>3 国際社会における日本の役割</p>		<p>日本国憲法の平和主義の下、私たちが果たすべき責任を理解する。</p> <p>国際社会を実現するために必要な日本の役割を理解する。</p>	<p>現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会と国家主権について、国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために、必要な情報を収集し、考察、構想している。(b) ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・国際連合などの国際機関の役割や課題について、国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察、構想したことを、論拠をもって表現している。(b) ・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。(a) ・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) ・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。(b) ・日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) ・人種・民族問題と地域紛争の実態、難民問題にする資料を、さまざまな情報手段を用いて収集し、課題の解決に向けて、国際社会では何がおこなわれているか、理解している。(a) ・変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、さまざまな観点から考察している。(b) ・持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、
--	---------------------------------------	---	--	--	---

11	<p>第3章 経済的な主体となる私たち</p> <p>主題9 社会の変化と職業観</p> <p>1 技術革新の進展と産業構造の変化</p> <p>2 企業の活動</p> <p>3 農林水産業の現状とこれから</p>		28	<p>少子高齢化による労働力不足が問題となる中、活発な経済活動と労働者の働きやすさを共に成り立たせるために必要なことを理解する。</p> <p>グローバル化・情報化・少子高齢化が進む現代社会において、将来の働き方をどう考えていけばよいか理解する。</p>	<p>国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) 仕事と生活との調和という観点から、雇用と労働問題に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) 企業・家計・政府の三つの経済主体を考え、経済的な主体となる私たちは、どのように経済活動に参加しているのか、理解している。(a) 雇用と労働問題について、日本的雇用慣行の崩れなど、現代の諸課題を主体的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 近年の雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体例をあげて多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。(c) 社会の変化と職業観について、人工知能の進化の影響など、現代の諸課題を理解している。(a) 技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 企業の役割や種類から、株式会社のしくみや企業の社会的責任について考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 農林水産業の現状と今後について、さまざまな情報を基に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 社会の変化と職業観について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えようとしている。(c)
	<p>主題10 市場経済の機能と限界</p> <p>1 市場経済と経済運営</p> <p>2 市場経済のしくみ</p> <p>3 経済発展と環境</p>			<p>公正で自由な経済活動を通して、市場が効率的な資源配分を実現できるしくみを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。(a) 価格の変化が、消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか、さまざまな観点から多面的・多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a)

三 学 期	12	保全 4 経済成長と国民福祉			<ul style="list-style-type: none"> 市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 外部不経済の典型例である公害について理解し、公害を防止し環境を保全するための方策について考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) 経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。(b) 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
		主題 11 金融のはたらき 1 金融の意義や役割	経済において、金融市場はどのような役割を果たしているのかを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 金融のはたらきに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) 資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解している。(a) 家庭科など他教科で学んだ知識もふまえて、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) 自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。(b) 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。(c) 	
	主題 12 財政の役割と社会保障 1 政府の経済的役割と租税の意義 2 社会保障と国民福祉	少子高齢化が進む中で、財政や社会保障を持続可能なものにするために、政府はどのような役割を果たしていくべきなのかを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。(a) 財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察、構想し、主体的に考えている。(b) 社会保障の意義を理解し、現在の社会保障の課題について考察している。(b) 社会保障制度の充実・安定化に関し、各国の租税負担など財政状況を比較しながら、日本の社会保障制度の諸課題を多面的・多角的に考察、構想、表現している。(b) 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c) 		
1	主題 13 経済のグロー	経済がグローバル化する中で、貧困や	<ul style="list-style-type: none"> 経済のグローバル化に関わる現 		

三学期	<p>ーバル化</p> <p>1 国際分業と国際貿易体制</p> <p>2 国際収支と為替相場</p> <p>3 経済のグローバル化と日本</p> <p>4 地域的経済統合の動き</p> <p>5 国際社会における貧困や格差</p> <p>6 地球環境問題</p> <p>7 資源・エネルギー問題</p> <p>8 国際社会のこれから</p> <p>第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち</p> <p>①地球環境問題～排出量取引を考える</p> <p>②資源・エネルギー問題～ベストミックスを考える</p> <p>③生命倫理～ゲノム編集を考える</p> <p>④情報～インターネットによる投票を考える</p> <p>⑤国際社会の課題～フェアトレードを考える</p>		<p>格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。</p> <p>持続可能な地域、国家・社会及び国際社会づくりに向けた役割を担う、公共の精神をもった自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、現代の諸課題を探究する活動を行う。</p>	<p>実社会の事柄や課題を理解している。(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の進展により、貧困や格差の問題、地球環境問題などの解決が、地球的な課題となっていることを理解している。(a) ・貿易の意義、円高・円安が生じる理由、貿易摩擦などについて、考察、構想し、表現している。(b) ・国際経済問題の解決には、国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。(a) ・地域的経済統合がもたらす影響について理解している。(a) ・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について、国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。(a) ・地球環境問題が国際的な問題になっていることや、その解決に向けての取り組みを考察、構想し、表現している。(b) ・資源の有限性を理解しつつ、新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。(a) ・地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。(b) ・国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとしている。(c) <ul style="list-style-type: none"> ・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見いだしている。(b) ・課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述している。(b) ・現代の諸課題を、「第1編 公共の扉」で学んだことを基に、幸福、正義、公正や公共的な空間における基本的原理を用いて、考察、構想し、論拠をもって表現している。(b) ・現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(c)
三学期	2	16		

合計70時間

課程 全日制

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	2	学年	2	科	全学科
使用教科書		明解 歴史総合（帝国書院）							

1. 科目の目標と評価の観点

目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ① 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 ② 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 ③ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。		
	① 知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価の観点	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身につけている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めている。

2. 評価方法

評価方法・観察	①	②	③	具体的な項目
学習上の観察			◎	学習活動の様子や発表，討論などの内容。
提出課題		○	◎	現代的な諸課題を探究する際のレポート。単元ごとに実施。
振り返りシート		○	◎	自らの学習状況の把握や学習改善のための自己評価、生徒による相互評価の内容。歴史的考察の試行錯誤の経緯。
小テスト	○			単元ごとの知識・技能の学習状況把握のために実施。
論述の内容		○	◎	定期考査の論述問題の内容。
定期考査	◎	◎		出題範囲における知識と技能の習得の状況，思考力・判断力・表現力を評価。各学期1回。

※表中の◎は観点の中でより重視するところです。

3. 学習にあたっての注意とアドバイス

<p>○歴史を「自分事」として理解し、主体的に考えるために、日頃からニュースなどに目を通して身近な諸問題について興味・関心を広め、歴史と現代の諸課題を関連づけられるようにこころがけよう。</p> <p>○歴史的事象の暗記におちいらないようにこころがけながら、「歴史の学び方」を学び、歴史と現代の諸課題の原因や背景を、客観的な資料に基づいて自ら調べ、その解決のあり方を積極的に模索できるような学びの場としよう。</p> <p>○グローバル化する国際社会の中で、新たな社会を創造できる工業人となるためにも、日本だけでなく世界の歴史や現代社会の構造を知り、これからの人生に生かせるような広い視野と深い教養を獲得できるように授業に取り組もう。</p> <p>○単位数が少ないため、1時間1時間の授業を大切にすること。欠課・遅刻をしないこと。</p>
--

4. 年間学習計画

		学習の内容	考査範囲	予定時数
一 学 期	4月	1部 歴史の扉 1章 歴史と私たち 2章 歴史の特質と資料	期末考査 左記範囲	26
		2部 近代化と私たち 序章 近代化への問い		
		1章 江戸時代の日本と結び付く世界		
	5月	2章 欧米諸国における近代化 3章 近代化の進展と国民国家形成		
	6月	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア 「近代化」を振り返り、現代的な諸課題と結び付けて考える		

二 学 期	7月	3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 序章 国際秩序の変化や大衆化への問い	期末考査 左記範囲	28
	8月	1章 第一次世界大戦と日本の対応 2章 国際協調と大衆社会の広がり		
	9月	3章 日本の行方と第二次世界大戦		
	10月	4章 再出発する世界と日本		
	11月	「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り、現代的な諸課題と 結び付けて考える		
三 学 期	12月	4部 グローバル化と私たち 序章 グローバル化への問い	期末考査 左記範囲	16
	1月	1章 冷戦で揺れる世界と日本 2章 多極化する世界		
	2月	3章 グローバル化のなかの世界と日本 これまでの学習を振り返り、現代的な諸課題の形成と展望を 考える		
	3月			

合計 70 時間

課程 全日制

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	2	学年	3	科	全学科
使用教科書		地理総合（実教出版）							
補助教材等		コンパクト地理総合地図（二宮書店）							

1 学習の到達目標

<p>1 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>2 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養わせる。</p> <p>3 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めさせる。</p>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<ul style="list-style-type: none"> ○ 地球環境が大きく変化している今、世界各地の自然環境の変化やそれともなっていて生じている諸事象について関心を持とう。 ○ 化石燃料から再生可能エネルギーへの転換期にある今、資源やエネルギーに関する世界の動向に関心を持とう。 ○ 世界の諸地域を学ぶことで、その地域の特色を知り、民族や文化、宗教への関心を深めよう。 ○ 日本と世界のつながりを知ることで、将来の日本の針路について考えを深めよう。
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<p>基礎的な地理の知識：地球の自然環境や人間活動に関する基礎的な知識が習得できていること。</p> <p>地理情報の活用：地理情報システム（GIS）や地図の読解、統計データの解釈など、現代の技術を活かした地理情報の活用ができること。</p>	<p>今日生じている地理的な現象や課題に対して、情報を整理し、因果関係を理解し、論理的な説明や議論ができる。</p>	<p>地理の授業を通じて世界の諸課題を理解し、それらを自分とのかかわりにおいてとらえようとする姿勢を持っている。</p>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（知識・技能にかかわる問題）の結果 ・振り返りシートの内容 ・調べ学習の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査（思考・判断・表現にかかわる問題）の結果 ・振り返りシートの内容 ・調べ学習の内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の論述問題やレポートの記述内容 ・授業中の活動状況 ・振り返りシートの内容

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

学期	月	単 元	教材	時数	学 習 内 容	評 価 規 準
1 学期	4 月	1. 球面と平面	教科書・地図帳	1	○なぜ様々な種類の地図があるのだろうか。 ・図法の違いによる用途を考える。	(a) ・地軸の傾きや季節変化についての基本的な事柄を理解し、緯度の高低と季節変化や日常生活への関わりをまとめることができている。 ・時差が生じる理由を理解し、アクティブ p.212 を活用して、時差の計算をすることができている。 (b) ・緯度による人々の生活文化の違いについて考え、その違いを多面的・多角的に考察し、レポートなどで適切に表現している。 ・時差が人々の日常生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 (c) ・時差が経済活動に与える影響などに興味関心を持ち、他科目（『公共』など）との関連性を意欲的に見だし、広い視野で学ぼうとしている。
1 学期	4 月	2. 緯度と経度	教科書・地図帳	1	○緯度・経度と人々の生活文化はどのように関係するのだろうか。 緯度・経度の違いと、人々の生活文化との関係を考える。	(a) ・地軸の傾きや季節変化についての基本的な事柄を理解し、緯度の高低と季節変化や日常生活への関わりをまとめることができている。 ・時差が生じる理由を理解し、アクティブ p.212 を活用して、時差の計算をすることができている。 (b)・緯度による人々の生活文化の違いについて考え、その違いを多面的・多角的に考察し、レポートなどで適切に表現している。 ・時差が人々の日常生活に与える影響について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。(c)・時差が経済活動に与える影響などに興味関心を持ち、他科目（『公共』など）との関連性を意欲的に見だし、広い視野で学ぼうとしている。
	4 月	3. 日常生活のなかの地図	教科書・	1	○なぜ私たちの生活に地図が必要なのだろうか。 ・様々な地図情報を学び、その活用法について考える。	(a) ・アクティブ p.214 を活用し、地形図から標高や比高、距離などを読み取ったり計算したりすることが

			地図帳		<p>できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ p. 214, 215 を活用して、新旧の地形図を比較し、その違いを読み取ってまとめることができている。 ・アクティブ p. 13 を活用して、GIS の有用性を理解できている。 (b) ・アクティブ p. 213 を活用して、地理情報に対応した適切な地図表現の方法を判断・選択することができている。 ・アクティブ p. 13 を活用して、ファストフード店の分布に関する地理情報を重ね合わせ、読み取った内容を適切に表現している。(c) ・身近な地域の課題解決に向け、主体的に情報を選択し、地図表現をすることで、試行錯誤しながらも世界や地域に対する課題意識を高め、その課題解決に意欲的に関わり追究しようとしている。 	
1 学期	5 月	4. 国家の領域	教科書・地図帳	1	<p>○国家の主権はどこまで及ぶのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主権の及ぶ領域について学ぶとともに、様々な国境の形態を理解する。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p15 を活用し、様々な国境の形態を理解できている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国境の形態の違いとその形成要因について、多面的・多角的に考察することができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な国家の領域について目を向け、領域の役割について主体的に追究し、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
1 学期	5 月	5. 日本の位置と領域	教科書・地図帳	1	<p>○日本の領域はどこまでなのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の位置的特徴を確認し、周辺地域との関係性を考える。 ・日本の領域とその重要性について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の位置的特徴や領域に関する基本的知識を身に付けている。 ・日本が抱えている領土をめぐる問題や課題について理解できている。 ・日本の領域について、p. 16 の地図で表現されている内容を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の領域や領土問題について、地域性や歴史的背景などを踏まえながら、多面的・多角的に考察することができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で起こっている領土や領域をめぐる問題や課題に意欲的に目を

					向け、その解決策を追究していこうとしている。
1 学 期	5 月	6. 国家間の結び付き	教科書・地図帳	1	<p>○第二次世界大戦以降、世界の国々はどのように結び付いてきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家どうしの結び付きから、国際情勢の変化や、国際協力の必要性を考える。 <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家が連携する理由について理解できている。 ・第二次世界大戦後の国家間の結び付きについて、歴史的背景を理解できている。 ・p. 19の地図を活用し、国家間の結び付きの特徴を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家間の結び付きが人々の生活に与える影響を多面的・多角的に考察することができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の中で、誰も取り残さない世界を目指した国家間の結び付きの必要性を考察し、よりよい国際社会の実現に向け、意欲的に課題解決に取り組もうとしている。
1 学 期	5 月	7. 国家間の結び付き	教科書・地図帳	1	<p>○モノ・人・情報は、グローバルな社会の中でどのようにつながっているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家どうしの結び付きから、国際情勢の変化や、国際協力の必要性を考える。 <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p. 20の地図から、労働者の移動について必要な情報を読み取り、特徴を考察することができている。 ・統計資料等から国家間の情報に関する現状について理解するとともに、その特徴を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働者の国家間の移動について、様々な背景を多面的・多角的に考察している。また、考察から得られた特徴をレポートにまとめるなど、適切に表現している。 ・情報の結び付きと諸問題について、多面的・多角的に考察ができている。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の移動のグローバル化によって生じる様々な問題を身近な課題としてとらえ、その解決策について意欲的に考察しようとしている。 ・情報格差の問題について学んだことを生かし、格差是正とその解決策について意欲的に考察しようとしている。

1 学 期	5 月	8. 世界の交通, 物流と日本	教科書 ・ 地図帳	1	○なぜモノや人は大量かつ広範囲に移動できるようになったのだろうか。 ・陸・海・空の交通網がどのように発展したのかを考える。	(a) ・ p. 23 の地図から, 時間距離の短縮を地図表現から読み取ることができている。 ・ 主題に対し, 適切な地図や統計資料を選択し, 内容をまとめることができている。 (b) ・ 交通網や輸送技術の進展について, 統計資料や地図を読み取りながら, レポートや定期テストの論述問題等で適切に表現できている。 (c) ・ 交通や物流の変化が世界経済に与えた影響について主体的に考え, 学習内容と社会生活との接点を積極的に見いだそうとしている。
1 学 期	5 月	9. 観光のグローバル化	教科書 ・ 地図帳	1	○なぜ日本への観光客数は増加しているのだろうか。 ・ 観光の多様化が進むことで, 日本の観光がどのように変化してきたか考える。	(a) ・ 地図や統計資料などの中から適切な資料を用いて, 日本における観光のグローバル化を読み取り, その特徴をまとめることができている。 (b) ・ 日本の旅行形態の多様化について, 多面的・多角的に考察ができている。 (c) ・ 様々な旅行の形態について, 興味関心を持っている。 ・ 観光についての多面的・多角的な考察を通して, 様々な日本の魅力を積極的に見いだそうとしている。
グループ 1 自然環境と生活文化						
1 学 期	6 月	■ <u>テーマ 1</u> 地形と生活文化	教科書 ・ 地図帳	2	○人々は山地や平野, 海岸に広がる地形をどのように利用して生活しているのだろうか。 ・ 山地・平野・海岸における地形の特徴と生活文化との関係を考える。	(a) ・ 地形の特徴の違いと人々の生活文化との関わりについて理解できている。 ・ アクティブ p. 215 を活用して, 新旧の地形の変化を読み取ることができている。 (b) ・ それぞれの地形の特徴と人々の生活文化との関わりについて多面的・多角的に考察し, レポート等にまとめるなど適切に表現している。

					<ul style="list-style-type: none"> それぞれの地形で暮らす人々が抱える課題について多面的・多角的に考察している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地形条件や地形の開発などによって生じる生活上の課題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。 	
1 学 期	6 月	■ <u>テーマ2</u> 気候と生活文化	教 科 書 ・ 地 図 帳	3	<p>○様々な気候帯における生活上の工夫や課題にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な気候に人々はどのように対応し、工夫しながら暮らしているのか考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各気候の分布とその特徴について理解できている。 アクティブ p. 220 を活用して、雨温図を作成し、その特徴を読み取ることができている。 アクティブ p. 221 を活用して、住居に関する2つの写真を読み取り、気候の違いを踏まえながらその特徴をまとめることができている。 それぞれの気候の特徴と関連した人々の生活文化について理解できている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの気候の特徴を写真等から読み取り、人々の生活について多面的・多角的に考察し、レポート等にまとめるなど適切に表現している。 それぞれの気候帯で暮らす人々の生活の中から問いを見だし、「持続的な生活」といった観点を踏まえながら協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの気候帯で暮らす人々の抱える課題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。
グループ2 産業の進展によって変化する生活文化（いずれかのテーマを選択）						
1 学 期	7 月	■ <u>テーマ1</u> 急速な経済発展で揺れ動く人々の暮らし（東アジア）	教 科 書 ・ 地 図 帳	3	<p>○人々の生活文化を支える産業はどのように発展してきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々の生活文化を支える産業や貿易の発展の過程と格差について考える。 <p>○経済発展や社会の変化により、人々の生活や産業はどのように変化したのだろうか。</p>	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 東アジアの経済発展の過程を社会変化と関連させて理解できている。 透過シートを活用し、中国における都市と農村の地域性について違いを読み取ることができている。 アクティブ p. 222 を活用して、主題図を作成し、中国の農業地域の

				<ul style="list-style-type: none"> ・経済発展や社会体制の変化、グローバル化の進展が人々の生活文化に与えた影響について考える。 	<p>特徴を読み取り、食文化と関連させて理解できている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済発展による社会の変化について、必要な情報を収集し、まとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市と農村の社会変化の違いを多面的・多角的に考察している。 ・急速な経済発展により生じた様々な諸課題について、その解決策などを協働的に考察・構想し、適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの急速な経済発展について主体的に追究し、自らの社会生活に関連する課題について意欲的に考察し、その解決策を主体的に構想しようとしている。
1 学期	7 月	<p>■テーマ2</p> <p>多様な文化・生業に彩られた人々の暮らし（東南アジア）</p>	教科書・地図帳	3 <ul style="list-style-type: none"> ○新しい文化の流入や植民地化、産業の進展は、国や社会の形成にどのような影響を及ぼしたのだろうか。 ・中国文化やインド文化と新たな文化の流入による東南アジアの生活の変化を考える。 ○人々は自然環境をどのように利用して生活しているのだろうか。 ・自然環境を生かした東南アジアの人々の生活と、その変化について考える。 ○地域内の連携による経済の発展はどのようになすとげられたのだろうか。 ・ASEANの結成と経済発展による人々の生活の変化について考える。 ○経済成長により人々の生活文化はどのように変わるのだろうか。 ・経済成長による伝統的な生業の変化について考える。” 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの植民地化の進展を理解している。 ・各種統計資料から、産業の進展を読み取ることができる。 ・東南アジアの島嶼部と大陸部で営まれる生活の地域的な特徴について理解している。 ・東南アジアの民族や宗教の多様性について、歴史的な経緯を含めて理解している。 ・ASEAN諸国の経済発展を統計資料等より読み取り、地域内の連携についてまとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの生業について多面的・多角的に考察し、自然環境を生かした生業の課題についてレポートにまとめるなど適切に表現している。 ・国家間の経済連携が人々の生活文化に及ぼした影響について多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 ・アクティブ p.69 を活用し、経済発展と都市問題の関係について協働的に考察・構想し、身近な課題として適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東南アジアの急速な経済発展について主体的に追究し、自らの社会生活に関連する課題について意欲

						的に解決しようとしている。 ・生業の持続可能性について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。
グループ3 宗教に基づいた生活文化（いずれかのテーマを選択）						
2 学 期	9 月	■ <u>テーマ1</u> ヒンドゥー教と結び付く生活文化（南アジア）	教科書・地図帳	2	○南アジアの成り立ちや人々の生活、産業の発展に宗教はどのように関わってきたのだろうか。 ・ヒンドゥー教と南アジアの社会生活について考える。 ○宗教と結び付きの強い社会は、どのような解決すべき課題があるのだろうか。 ・南アジアの諸課題と宗教との関係を考える。	(a) ・世界の宗教分布について、p.70の地図を読み取り、特徴をまとめることができる。 ・宗教と結び付いた社会の成立過程を理解している。 ・ヒンドゥー教についての基本的な特徴を理解している。 ・宗教と社会生活の関わりについて、必要な資料を収集し、読み取り、まとめることができている。 (b) ・宗教と結び付きの深い国々の特徴についてまとめ、表などで適切に表現している。 ・ヒンドゥー教が人々の生活文化や産業の進展に与えた影響について多面的・多角的に考察し、宗教が関係している課題について、レポートや発表等で適切に表現している。 (c) ・宗教と社会生活の関連について主体的に追究し、課題の解決策を意欲的かつ主体的に考察・構想しようとしている。
2 学 期	9 月	■ <u>テーマ2</u> イスラームと結び付く生活文化（西アジア・北アフリカ）	教科書・地図帳	3	○イスラームはなぜ西アジアを中心に拡大したのだろうか。 ・イスラームが西アジアを中心に広まった理由について考える。 ○人々の生活や産業の発展にイスラームはどのように関わっているのだろうか。 ・イスラームの考え方や習慣と人々の生活文化との関係について考える。	(a) ・イスラームの成り立ちやその拡大について理解している。 ・イスラームの習慣について必要な情報を収集し、その特徴をまとめることができる。 ・イスラームとヒンドゥー教の習慣の違いを比較し、まとめることができる。 ・イスラーム社会の抱える問題について、必要な情報を収集し、その特徴をまとめることができる。 (b)・イスラームの拡大と分布の特徴について主題図を作成するなど、適切に表現している。 ・イスラームの生活習慣について、伝統的な習慣だけでなく、グローバル化や社会状況の変化により見

					<p>られる多様化を多面的・多角的に考察し、レポート等に適切に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム社会が抱える問題について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム社会の課題と日本や身近な地域との関連性を主体的に追究し、課題との関わりについて意欲的に考察し、その解決策を主体的に構想しようとしている。
グループ4 国家・民族・言語の結び付きと生活文化（いずれかのテーマを選択）					
2 学 期	10 月	<p>■<u>テーマ1</u> 国家の統合と生活文化（ヨーロッパ）</p>	教科書・地図帳	3	<p>○なぜ世界には多様な生活文化がみられるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な民族や言語の存在およびその分布について考える。 <p>○地域の統合はどのように進み、地域内の産業や生活文化にどのような影響を与えているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパを事例として、地域統合の歴史と地域の変化を考える。 <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の民族分布の特徴を、p.92の地図から読み取ることができている。 ・ヨーロッパの地域統合の過程を理解している。 ・ヨーロッパの地域統合による人々の暮らしの変化について、情報を読み取り、まとめることができている。 ・p.100の地図や写真から、地域統合によって生まれてきた課題を読み取ることができている。 ・ヨーロッパの農業や工業の発達について、地域の生活文化と関連づけて理解している。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語が異なる民族間で生じている様々な問題や課題について多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 ・地域統合に伴う人々の生活に関する課題について、格差や多文化共生の観点から協働的に考察・構想し、発表等で適切に表現している。 ・持続可能な社会の実現に向けたヨーロッパの様々な産業の取り組みについて多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域統合による人々の生活の変化について主体的に追究しようとしている。 ・地域統合による格差や多文化共生

					<p>といった課題に対し、身近な課題と関連付けて主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパの持続可能な社会の実現に向けた産業面での取り組みについて主体的に追究し、日本の課題と関連付け、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。 	
2 学 期	10 月	<p>■<u>テーマ2</u> 国家の拡大・変容と生活文化 (ロシアと周辺諸国)</p>	教科書・地図帳	3	<p>○世界最大の国家はどのように形成され、どのように変容したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多民族国家ロシアの歴史と人々の生活について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・p108の地図から、ロシアが多民族国家であることを読み取り、特徴を理解している。 ・ロシアの生活文化について、社会制度の変化に加え、民族・宗教の違いにも着目しながら理解できている。(b)・自然環境の厳しい地域に暮らす人々の生活と産業の関わりについて多面的に考察し、課題点を見いだしたうえで、それらを適切に表現している。 ・ロシアと日本の関係について、生活文化や経済面での関わりなど多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 (c)・ロシアと日本の関わりについて主体的に追究し、両国間の課題について、その解決策を主体的かつ意欲的に考察・構想しようとしている。
2 学 期	10 月	<p>■<u>テーマ3</u> 多民族・多文化の共存と生活文化 (サハラ以南アフリカ)</p>	教科書・地図帳	3	<p>○なぜ地域紛争や民族対立が起こるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サハラ以南アフリカの事例から、多民族社会の生活文化と課題について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの植民地支配について p, 112の地図を読み取り、まとめることができている。 ・アフリカの言語分布と植民地支配との関連性を理解している。 ・アフリカの産業の特徴について p. 116の図表から読み取り、理解している。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの民族分断の背景や要因について多面的・多角的に考察し、レポートにまとめるなど、適切に表現している。 ・アフリカの伝統的な生業とその変化について問いを見だし、生活文化の持続的な発展といった観点からレポートにまとめたり発表し

					<p>たりするなど、適切に表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの抱える課題を見だし、課題解決の観点などから協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカの伝統的な生業と経済発展による課題の関係性について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察 ・構想しようとしている。 ・貧困や教育、多文化共生などといったアフリカの抱える課題について、自らの社会生活との関わりを積極的に見だし、その解決に向けたあり方を意欲的かつ主体的に考察・構想しようとしている。
グループ5 移民とともに形成された生活文化（いずれかのテーマを選択）					
2 学 期	11 月	<p>■<u>テーマ1</u> 移民国家の形成と生活文化（北アメリカ）</p>	教科書・地図帳	3	<p>○移民による多文化共生社会はどのように形成されたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移民国家がどのように形成されてきたか考える。 <p>○移民はどのように国を支えているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業や工業などの面で移民の役割の違いについて考える。 <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移民国家が形成された歴史的背景を理解している。 ・アメリカ合衆国の移民構成について、p.126の地図を読み取り、まとめることができている。 ・移民が深くかかわる産業や労働について、写真などの必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができている。(b)・移民の生活文化とそれに対する誤解や差別といった問題についてレポートにまとめるなど、適切に表現している。 ・移民差別や、労働にかかわる移民の問題や課題について協働して多面的・多角的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移民にかかわる課題について主体的に追究し、アメリカ社会の構造的な側面などから解決すべき課題を意欲的に見いだそうとしている。
2 学 期	11 月	<p>■<u>テーマ2</u> 移民による多文化社会の形成と変容（ラテンアメリカ）</p>	教科書・地図帳	2	<p>○先住民と移民による多民族・多文化社会はどのように形成されてきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先住民と移民の共存による多文化社会の形成について考える。 <p>○ラテンアメリカの生活文化</p> <p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカへの移民流入の歴史を理解している。 ・p.134の地図からラテンアメリカにおける人種・民族構成と言語などとの関係を読み取り、まとめることができている。

				<p>はどのように形成されたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラテンアメリカの生活文化形成の背景と、その後の発展を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ p. 137 の写真より、ラテンアメリカの産業の発展と社会の変化について情報を収集し、読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先住民が移民にもたらしたものや、移民が先住民にもたらしたものについて主題図等にまとめ、適切に表現して。 ・ ラテンアメリカで人種・民族の融合が進んだ理由について多面的・多角的に考察し、レポート等で適切に表現している。 ・ 移民がもたらした大規模農業や鉱工業の発展にもなって現れた新たな課題について、協働して多面的・多角的に考察・構想し、発表等で適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先住民と移民と融合について主体的に追究し、日本との関わりについても意欲的に追究しようとしている。 ・ 移民との関わりにより進展した大規模農業や産業の発展と地球規模の課題について主体的に追究し、持続可能な社会へ向けた課題を意欲的に解決しようとしている。 	
2 学 期	11 月	<p>■テーマ3</p> <p>先住民と移民による多文化社会の発展（オセアニア）</p>	教科書・地図帳	2	<p>○なぜ移民を多く受け入れる国があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に移民を受け入れる理由と国の発展について考える。 <p>○先住民と移民による多文化社会はどのように形成されてきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に移民を受け入れた国における先住民と移民の関わりについて考える。 <p>○多文化社会の生活文化にはどのような特徴や変化がみられるだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業や経済活動の変化による多文化社会の生活について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統計資料などから、オーストラリアが積極的に移民を受け入れる背景について読み取り、まとめることができている。 ・ p. 142 の資料から、オーストラリアの移民推移の変化を読み取り、その特徴をまとめることができている。 <ul style="list-style-type: none"> ・農業や鉱工業の視点からオーストラリアの特徴を読み取り、まとめることができている。 ・大陸部と島嶼部の生活文化について比較し、その違いを読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアが移民を多く受け入れる理由について考察し、多文化共生に至るまでの課題や今後の課題について多面的・多角的に考察し、レポート等で適切に表現している。

					<ul style="list-style-type: none"> ・オーストラリアの産業発展と移民の関わり方について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 ・大陸部・島嶼部それぞれの社会が抱える課題について協働して多面的・多角的に考察・構想し、発表等で適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移民の受け入れと国の発展について主体的に追究し、移民増加に伴う課題等について意欲的に解決しようとしている。 ・島嶼部の先住民が抱える課題について地球的な課題と関連付けて主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。 	
2 学 期	12 月	1. 人口問題の 展開と対策	教科 書 ・ 地 図 帳	1	<p>○人口増加の問題解決のためのどのような取り組みが行われているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加の問題を、世界的な視野で考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口爆発が起きるまでの人口変化の過程や世界の人口の偏りを理解している。 ・人口ピラミッドから人口変化を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域によって異なる人口問題に着目し、それぞれの地域の人口問題についてレポートにまとめるなど、適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加の問題について主体的に追究して、世界の諸課題の解決に意欲的に関わろうとしている。
2 学 期	12 月	2. アンバランスな人口分布	教科 書 ・ 地 図 帳	1	<p>○少子高齢化はどのような問題を引き起こすのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化が先進諸国にどのような影響を及ぼしているか考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加による人口問題との違いを理解している。 ・先進諸国の人口に関する諸情報を収集し、人口変化を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の少子高齢化の問題について、世界の人口問題と比較して多面的・多角的に考察し、課題について適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の抱える少子高齢化の課題について主体的に追究し、課題解決に向けて学習したことを生かそうとしている。

2 学 期	12 月	3. 食料問題の 要因と解決に向 けた課題	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○発展途上国と先進国の食料問題にはどのような違いがあるのだろうか。 ・食料問題の要因を考えるとともに、発展途上国と先進国の食料問題の違いを考える。	(a) ・世界の食料問題の現状を、p. 156の地図から読み取ることができる。 ・人口増加による食料問題の進展を理解している。 (b) ・p. 156-157の地図から、食料や飲料水などの利用の不均衡な状態を考察し、世界の食料問題についてレポートにまとめるなど適切に表現している。 (c) ・世界の食料問題について主体的に追究し、自分との関わりについて積極的に考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
2 学 期	12 月	4. 食料問題への 取り組み	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○食料問題に対して国際社会はどのように取り組んでいるのだろうか。 ・食料問題に対する世界の取り組みより、その重要性を考える。	(a) ・様々な国際機関の役割を理解している。 (b) ・食料問題と関わりのあるSDGs目標を関連づけて、多面的、多角的に考察している。 (c) ・フードロスなどの課題に対し、主体的に追究し、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
2 学 期	12 月	5. 都市・居住 問題	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○都市問題に対してどのような取り組みが行われているのだろうか。 ・発展途上国と先進国の都市問題の違いを考える。	(a) ・都市人口の増加によって引き起こされる都市問題について理解している。 ・先進国における都市問題の要因について理解している。 (b) ・p. 160の地図とグラフから都市問題の深刻な地域を推測し、それぞれの地域の課題についてレポートにまとめるなど、適切に表現している。 (c) ・都市問題についての学習を通して身近な都市問題について主体的に追究し、その解決策を意欲的に考察・構想しようとしている。
2 学 期	12 月	6. エネルギー 資源の開発と限 界	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○エネルギー資源はどのように開発されてきたのだろうか。 ・エネルギー資源の歴史を振り返るとともに、今後のエネルギー開発について考える。	(a) ・世界の一次エネルギー消費量について、p. 162の地図からその特徴を読み取り、まとめることができる。 (b)・エネルギー問題と人口増加の間

			帳		<p>題との関連性を，多面的，多角的に考察している。</p> <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なエネルギー消費について主体的に調べるなど，持続可能なエネルギー利用について意欲的に追究しようとしている。 	
2 学 期	12 月	7. 新たなエネルギー資源への取り組み	教科書 ・ 地図帳	1	<p>○再生可能エネルギーの利用にはどのような課題があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの利点と課題について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーにはどのようなものがあるか，理解している。 p. 164 の図や写真から，再生可能エネルギーの発電がさかんな地域を読み取ることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 石油に代わる代替エネルギーの開発について，多面的・多角的に考察している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 循環型社会の構築へ向けて，再生可能エネルギーについて学習したことを意欲的に社会生活に生かそうとしている。
2 学 期	12 月	8. 地球環境問題：地球温暖化	教科書 ・ 地図帳	1	<p>○地球温暖化は私たちの暮らしにどのような影響を及ぼすのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の将来にわたる影響について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化により引き起こされる災害や社会問題について理解している。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の影響について，先進国と発展途上国それぞれの立場から多面的・多角的に考察している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化の要因や影響について主体的に追究し，地球温暖化防止のために学習したことを生かそうとしている。
2 学 期	12 月	9. 様々な場所で発生する地球環境問題	教科書 ・ 地図帳	1	<p>○私たちが直面する地球環境問題にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題の発生と関わり方について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> p. 168 の地図を読み取り，様々な地球環境問題の世界的な分布を理解している。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブ p. 172-173 を活用して地球環境問題の要因と影響，その解決策について多面的・多角的に考察し，それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な地球環境問題と自分との関わりを主体的に追究しようとしている。

2 学 期	12 月	10. 地球的課題 の解決に向けた 国際協力	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○なぜ地球的課題を解決するた めに国際的な取り組みが必要 なのだろうか。 ・地球環境問題に対する国際協 力について考える。	(a) ・様々な地球的課題の解決のため に、国際協力が行われてきた歴史 を理解している。 ・SDGsの目標を理解している。 (b) ・地球的課題をSDGsの達成目標と関 連させて多面的・多角的に考察し ている。 (c) ・地球的課題解決のためにSDGsの達 成目標を主体的に追究し、自らの 社会生活に生かそうとしている。
第3編 持続可能な地域づくりと私たち						
3 学 期	1 月	1. 日本の自然 環境	教 科 書 ・ 地 図 帳	2	○日本の自然災害には、自然環 境がどのように関係している のだろうか。 ・自然災害と日本の自然環境の 関係性を考える。	(a) ・日本で発生する自然災害について、 日本の自然環境の特徴と関連付けて 理解している。 ・地震や台風などの発生について、 p.176-177の地図を読み取り理解して いる。 (b) ・日本の自然環境の特徴を、世界と比 較して考察し、それらをレポート等で 適切に表現している。 (c) ・災害を引き起こす自然環境の特徴に ついて、主体的に追究しようとしてい る。
3 学 期	1 月	2. 地震・津波	教 科 書 ・ 地 図 帳	2	○地震や津波はどのような場所 で発生するのだろうか。 ・地震と津波の関係性を考え る。	(a) ・地震の発生に伴って引き起こされ る被害について理解している。 ・地震の分布とプレートの分布の関 連性を理解している。 ・アクティブ p.224-225 を活用し、 津波による浸水域と地形条件との 関連性を読み取ることができてい る。 (b) ・地震に関連して引き起こされる被 害の特徴について、それぞれレポ ートや発表等で適切に表現してい る。 (c) ・地震に関連して引き起こされる被

						害について主体的に追究し、自らの生活に大きく関係する被害について意欲的に考察しようとしている。
3 学 期	1 月	3. 地震・津波への対策	教科書・地図帳	2	○地震や津波の発生に備えてどのような取り組みが行われているのだろうか。 ・それぞれの危険性の高い地域による取り組みと被害軽減策について考える。	(a) ・日本で行われている津波や地震に対する対策とその効果を理解している。 ・どのような対策が必要か、情報を収集し、まとめることができている。 ・アクティブ p. 226-227 を活用し、地震にともなう津波発生時の避難ルートを考えることができている。 (b) ・必要な対策について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ・アクティブ p. 226-227 を活用し、地震・津波対策の観点から協働的にその対策を考察し、それらを適切に表現している。 (c) ・地震に関連して引き起こされる被害について主体的に追究し、自らの生活に大きく関係する被害について意欲的に対策を検討しようとしている。
3 学 期	1 月	4. 火山災害と対策	教科書・地図帳	2	○火山活動によりどのような災害が発生するのだろうか。 ・火山活動により発生する災害について考える。	(a) ・火山活動により引き起こされる被害を理解している。 ・火山被害の多い地域を、p. 182 の地図から読み取ることができている。 (b) ・必要な対策について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ・火山活動と社会生活の共存について、レポートや発表等で適切に表現している。 (c) ・火山活動による被害、恩恵の両面で自らの社会生活と深くかかわっている点について主体的に追究しようとしている。
3 学 期	1 月	5. 風水害	教科書	2	○日本ではどのような風水害が発生するのだろうか。 ・風水害の発生要因と地域による被害の違いを考える。	(a) ・大規模な風水害が発生する要因を理解している。 ・アクティブ p. 192 を活用して、洪

			地図帳		<p>水と地形の関係を読み取ることができている。</p> <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域によって異なる風水害の違いを多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 ・アクティブ p.192 を活用して、風水害の危険性について協働的に考察し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域で起こる風水害について、単元で学習したことを意欲的に社会生活に生かそうとしている。 	
3 学期	1 月	6. 風水害への対策	教科書・地図帳	1	<p>○風水害を軽減するためにどのような対策が行われてきたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風水害軽減のために行われている、地域による様々な工夫について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における様々な風水害対策の事例について、教科書等から必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域で起こる風水害の特徴について協働的に考察し、それらを適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域で起こる風水害について、その対策を主体的に追究し、単元で学習したことを意欲的に社会生活に生かそうとしている。
3 学期	1 月	7. 雪害・高温と対策	教科書・地図帳	1	<p>○雪害への対策にはどのようなものがあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雪や高温による社会生活への被害について考える。 	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本における豪雪地帯の分布と、降雪量が多い要因について理解している。 ・日本の高温の状況について、教科書や様々な主題図から必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができている。 <p>(b)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪害や高温被害について生活者の視点や消費者の視点から多面的・多角的に考察し、レポートや発表等で適切に表現している。 <p>(c)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雪害や高温被害について、自らの社会生活との関わりを主体的に追究し、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
3 学期	1 月	8. 防災・減災への取り組み	教科書	2	<p>○自然災害による被害を軽減するためにどのような取り組みを行う必要があるのだろうか</p>	<p>(a)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災のための様々な取り組みについて必要な情報を収集し、

			・ 地図帳		か。 ・被害軽減のための取り組みについて考える。	まとめることができている。 ・アクティブ p.194-195 を活用し、避難経路を示すことができている。 (b) ・アクティブ p.194-195 を活用し、防災、減災について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 ・自助・共助・公助の取り組みについて問いを見だし、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 (c) ・自助や共助の取り組みについて主体的に追究して、学習したことを社会生活に生かそうとしている。
3 学期	1 月	1. 課題の発見と事前調査	教科書 ・ 地図帳	1	○事前調査はどのような順序で進めればよいのだろうか。 ・地域調査の適切な進め方を考える。	(a) ・調査の基本的な進め方について理解している。 ・調査テーマを決定する際に必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができている。 (b) ・調査テーマの決定に必要な情報を協働して多面的・多角的に考察し、仮説を表現できている。 (c) ・設定した調査テーマについて主体的に追究して、調査を行おうとしている。
3 学期	1 月	2. 現地調査	教科書 ・ 地図帳	1	○現地調査を行う際は、どのように計画を立てたらよいだろうか。 ・現地調査の適切な実施方法を考える。	(a) ・仮説に対し、必要な情報を収集し、読み取り、まとめることができている。 ・収集した情報を地図化するなど適切な方法で記録し、まとめることができている。 (b) ・調査手法や記録方法を協働的に考察・構想し、適した方法で表現できている。 (c) ・調査の実施に際し、自らの役割に意欲的に取り組み、調査課題について主体的に追究し、課題を解決しようとしている。
3 学期	1 月	3. 調査結果の整理	教科書	1	○調査結果はどのような方法でまとめればよいだろうか。 ・調査結果の効果的な整理方法	(a) ・調査結果を地図や表にするなど、適切な方法でまとめることができ

			・ 地 図 帳		を 考 え る。	て い る。 (b) ・調査で得た情報を適切な方法で表現し、調査課題に対し協働的に考察している。 ・アクティブ p.201 を活用し、複数の情報を1枚の地図に重ね合わせて表現し、考察している。 (c) ・調査結果に対し、その表現方法について主体的に追究して、調査結果を意欲的に示そうとしている。
3 学 期	1 月	4. 調査結果の 分析と考察	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○調査結果は、どのように分析すればよいだろうか。 ・調査結果の分析方法について考える。	(a) ・調査結果を適切な手法で分析し、作成した地図等を読み取り、まとめることができている。 (b) ・調査情報をグループ間で共有し、調査結果を協働して多面的・多角的に考察し、それらを適切に表現している。 (c) ・調査結果とともに、新たな仮説や課題点について主体的に追究し、調査から得られた課題を意欲的に解決しようとしている。
3 学 期	1 月	5. 発表と報告	教 科 書 ・ 地 図 帳	1	○調査結果をどこで、どのように発表すればよいだろうか。 ・調査結果の発表方法を考える。	(a) ・調査結果の報告に適した報告手法を選択できている。 (b) ・調査結果について、発表手法に合わせ、適切な手段で表現している。 (c) ・調査結果の報告だけでなく、調査で得た情報をもとにより良い社会の実現を視野に意欲的に提言しようとしている。

計70時間